

耐震診断の結果の見方（「耐震診断の結果」と「附表」の関係）

「耐震診断の結果」と「附表」を用いて「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性」を確認することができます。

耐震診断の結果									
NO	建築物の名称		建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
	〇〇小学校	〇〇棟	春日部市〇〇1-1	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」	Is/Iso値=1.23 C _{TU} ・S _D 値=0.41	-	-	Iso=0.75として診断 U=1.25として診断

①耐震診断の結果の耐震診断の方法の名称を附表から確認します。

②安全性の評価の結果と附表の区分を比較することで危険性について確認をすることができます。
(当該結果の場合、Ⅲに該当し「危険性が低い」となります)

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い)
(2)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$
		$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.25 < C_T \cdot S_D$
				$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示します。
※いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。
※耐震診断の結果の備考に記入のない場合は、Iso=0.6、Z=1.0、G=1.0、U=1.0とします。